

お元気ですか

発行所・(福)横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター

〒231 横浜市中区桜木町1丁目1番地
-8482 横浜市健康福祉総合センター9階
TEL 045(681)1211・FAX 045(680)1550
http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/

編集発行人・森 和雄

2019 / 6

安心とつながりの居場所

「さ・い・た」の港南区地域訓練会

港南区地域訓練会

親子で楽しく

「さ・い・た」(以下、「さいた」)を訪問した。「さいた」には様々なプログラムがあり、会員は十八名。訪問したのは港南福祉ホームで行われている土曜日の活動。

みんな集合

朝十時、みんなが集まり始める。お母さんだけでなく、お父さんと一緒に来る子どももいる。地域療育センターや幼稚園に通っている子ども、小学校に通っている子ども、幅広い年齢層の子どもたちが集まる。土曜日ならではの光景だ。



みんなで工作

「さいた」の土曜活動では母子分離は行わない。幼稚園や学校に入ると、親子でゆっくり過ごす時間が短くなる。親子の間を大切にすること

とは親子関係の安定につながるとのこと。みんなで机を囲み、甲羅に思い思いの絵を描いた「亀」の置物を作った。訓練会とは：

安心とつながり

お母さんたちにとって訓練会はどのような場所かを尋ねてみた。「弱音を吐ける場所」「気兼ねなく話せる場所」「温かく見守られる場所」「ずっと通いたい場所」選ぶ言葉は違っても、どのお母さんにとっても安心できていることが伝わってきた。

長く活動を続けているボランティアさんは「仲間づくりを大事にしている。最初は戸惑いと不安の表情を浮かべているお母さんたちが、つながることでもたくさん話し、よく笑うようになる。表情が少しずつ和らぐ姿を見ることが嬉しい。訓練会は、子どもたちの成長

だけでなく、お母さんの力になれる場でありたい。お母さんがちよつと安心して帰ってほしい」と話してくれた。

今は、様々な福祉サービスがあるけれど、「地域訓練会」はサービスを受けるところとは異なる居場所だ。親子のつながりの場として、これからも長く活動してほしい。



親子遊び

望遠鏡

四月の東京大
学入学式で、上
野千鶴子東大名
誉教授が新入生
に向けた祝辞で
「頑張っても報

われない社会が待っている」発言が、共感を呼んでいるという。精神障害者問題に長くかかわってきた立場からすると、更に「頑張ろうにも頑張れる社会的条件の底が抜けている」障害者のことが改めて、気になる。工賃時給百二十円、月額八千円前後で、障害年金を加えても質の高い地域生活が送れる収入とは言い難い。平成のデフレが長く続き、IT技術の目覚ましい発達とともに、IT長者と非正規就労層の拡大に象徴される社会の二極化も止まらない。人権をベースにした共に生きる社会の実現と言うならば、改めて「やまゆり園」事件や精神病院の社会的入院問題に、目を向けるべきではないか。

(特定非営利活動法人

横浜市精神障害者地域生活支援連合会 大友勝)

「さ・い・た」のプログラム

10:00	～ 集合・自由遊び
10:30	～ 朝の会・親子遊び
10:45	～ 工作
11:15	～ 外遊び
12:00	～ お弁当
12:45	～ 帰りの会 (手遊び・読みきかせ)
13:00	終了

第七回自閉症懇談会
強度行動障害のある生徒の進路と日中活動
（教育、家庭、日中活動における
支援の共通化や指標の作成を）



自閉症者、特に強度行動障害のある方の住まいや暮らしについて検討してきた自閉症懇談会（二十六年発足）。第七回は今まで取り上げてこなかった日中活動や進路を中心に議論した（進路対策研究会と支援センターの共催、座長・市立上菅田特別支援学校 相田氏。三月開催）。

自閉症の生徒の割合は毎年約三割強。その内、三割前後が就労へ、六、七割の生徒は福祉サービス事業所がその進路先である。
強度行動障害のある生徒は？
進路対策研究会では自閉症で特に強度行動障害のある生徒の把握はしていない。懇談会開催にあたり特別支援学校等高等部を対象にアンケートを取った結果、強度行動障害と思われる生徒は約十名在籍していた。

しかし、港南台ひの特別支援学校の鈴木氏は「学校の様子だけでは強度行動障害の生徒の実体は把握しにくい。学校と家庭では様子が違う事もかなり多くある。家庭に調査を実施したら強度行動障害の生徒数はもっと増えるのでは」と語る。

「現在、自閉症の生徒の通所先はなんとか確保できているが、毎年通所に結びつかず在宅になる生徒が数名いる。アンケートの強度行動障害の生徒数と重なっている部分もあるのではないかと詳細な分析の必要性を語る。事業所では自閉症の方を積極的に受け止めている日中事業所の責任者である齊藤氏、赤川氏、佐藤氏は「外部のコンサルテーションなどを受け入れ、スキルと環境を整えば地域で受け止めていける方も多い」と語る。発達障害者支援センター・西尾氏も「地域支援マネジャーの事業所等支援として現在、五十二事業所へのコンサルテーションが稼働中」という。また一方、先の責任者からは、教育の関わりはもろろん、放課後等デイサービスの利用

も進み、そこでの関わりが家庭や卒後の通所先での状態にも相当影響を及ぼしていると語り、連携の必要性を訴える。
暮らしの状態も含めた指標が必要
横浜市自閉症児・者の会 会六倉氏からは、親の会や学校、児童の福祉サービス、通所先など場面ごとの状況だけではなく、暮らしの質を高めるという意味で家庭やGHでの状況も含めて、めざすべき客観的な共通の評価指標を作成する必要があるとの提案がなされた。長く自閉症支援に関わる中村氏は「本人と様々な資源との関わりの中で、本人が納得する共通の支援内容が確立していけば地域生活が安定する方も多いため、日中活動先もその手掛かりを模索し、家庭などへも発信できるのではないかと語る。共通の支援を模索し、

安定した地域生活を組み立てるために「ミドルステイモデル事業」を通して試行されている事例も花みずき施設長の原田氏、先の西尾氏から報告された。
自閉症の特性の理解、家庭も含めた共通化
自閉症児・者の親の会の八島氏は「支援者は自閉症の特性を理解しまずは受け止めて欲しい」と訴え、また同会の中野氏は「横浜市行政には、大人になつたらこういう生活もできるといった見通し示してもらいたい」と言う。最後に相田座長は「今回学校へアンケートを実施し、強度行動障害のある生徒の把握が難しいことがわかった。今後も検討を進めていきたい。本人が関わる社会資源は増え、学校も含め、支援の共通化は必要。それぞれの関わりが本人の家庭生活などへ大きく影響している可能性もあることから、本人の生活の質を総合的に検討する指標づくりと対応の共通化は必要であると思う」とこれからの展望を述べた。

「今回学校へアンケートを実施し、強度行動障害のある生徒の把握が難しいことがわかった。今後も検討を進めていきたい。本人が関わる社会資源は増え、学校も含め、支援の共通化は必要。それぞれの関わりが本人の家庭生活などへ大きく影響している可能性もあることから、本人の生活の質を総合的に検討する指標づくりと対応の共通化は必要であると思う」とこれからの展望を述べた。

ことからの、本人の生活の質を総合的に検討する指標づくりと対応の共通化は必要であると思う」とこれからの展望を述べた。

- 【自閉症懇談会】委員（敬称略、順不同）
相田 宏（座長・進路対策研究会委員長/横浜市立上菅田特別支援学校）
中野 美奈子（横浜市自閉症児・者の親の会会長）
穴 孝昭（横浜市自閉症児・者の親の会）
八 敏昭（横浜市自閉症児・者の親の会）
中 公昭（千代田区立障害者就業支援施設ジョブ・サポート・プラザちよだ 所長）
赤 真達（NPO法人新総括責任者）
藤 淳（つるみ地域活動ホーム幹 施設長）
原 花みずき（花みずきみ 所長）
佐 淳（南福祉ホームむつつセンター長）
尾 紀子（横浜市発達障害者支援センター長）
米 利佳（進路対策研究会 横浜市港南台ひの特別支援学校）
米 利佳（横浜市健康福祉局障害企画課 施設推進担当係長）
黒 宏彰（横浜市健康福祉局障害支援課 在宅支援係長）

*ミドルステイモデル事業
平成二十八年年度から二次相談支援機関の障害者支援施設で実施（四施設）。二次相談支援機関としての専門性を発揮した相談支援の実施と、入所施設が実施する短期入所を連動させ、対象者に対する一定期間の直接支援と、家族や相談支援専門員等の関係機関に対する環境調整等により、地域生活の維持・継続を図ることを目的とした取組。

第二十二回

重症心身障害児者の進路と生活
支援を考える懇談会 開催

重症心身障害児者と

その家族を支えるために、医療、福祉、教育、行政の連携を目指してきた重心懇談会(座長・日浦美智江氏)。第二十二回目となる今回は、去る三月十六日に開催され、三十一年度の市施策の動向を共有しながら、関係者約二十五名が熱心な意見交換を行った。

■市施策の動向

三十一年度の重心関係施策の大きな動きの一つは「医療的ケア児・者等支援促進事業」だ。日常的に人工呼吸器などで医療的ケアが必要な障害児・者等の在宅生活を支援するために、コーディネート者の配置や福祉・医療・教育の協議の場の設置など、こども青少年局、健康福祉局、医療局、教育委員会事務局の四局が連携して行う。

対象は医療的ケアの

必要な障害児・者と同様な課題を抱える重心児者。コーディネートについては、三十一年度に磯子区に一名を配置し、さらに年度内に五名を育成していく予定だ。

他、「特別支援学校

医療的ケア体制整備事業」において、特別支援学校(六校)に引き続き看護師が配置されることや、「移動支援事業」における喀痰吸引などに横浜市の加算が追加されることが共有された。

■現状と課題

〈実習と進路状況〉

重心児者への支援の充実に対して、参加者から今後への期待が寄せられたが、学校卒業後の進路状況については依然として厳しい状況が続いている。三十一年度高等部三年に在籍

していた重心生徒の実習先は平均して三か所、多い生徒で五か所となった。

さらに、実際の進路

先は一か所の事業所で週五日の受け入れが困難であるため、半数以上の生徒が並行して二か所、最大四か所への通所となった。この結果は医療的ケアの内容によって受け入れの可否が分かれた状況だ。

ばざネットの下山

氏は「日中の通所に關して、特に学齢期の子を持つ親は大きな不安を感じている。また、複数箇所への通所に關しては、三、四か所となった場合、本人の負担は大きい。日中の通所の受け入れ先として、多機能型拠点だけでは足りない。身近な地域で通所が可能になるよう、何年度にどの地域に整備していくという行政による計画的な整備が必要」と訴えた。

〈事業所から〉

「若草」の矢口施設長は「重心施設は日々の通所者数による収入の影響が大きい。一方で現場の職員体制確保も必要であり、施設の努力だけでは運営は厳しい」と語る。

同様に、「訪問の家」

名里理事長からも「障害の重い人でも社会に出て活動していくことは重要だ。そのためには充実した職員体制での支援が必要であることを理解いただき、市にも運営の仕組みづくりの検討をお願いしたい」と要望が寄せられた。

日浦座長は「これまで

の懇談会でも、医療、福祉、教育、行政が手をつないでいくことの重要性を確認してきた。今回新しい動きも共有されたが、重心施策の柱をどこに置き、どこをつないでいくかが今後ますます大切になる。本人・家族の支援に一同更に力を尽くしたい」と締めくくった。



トラック (保土ヶ谷区) 渡邊 正和さん



最近描いた絵や台紙。好きなものをまとめたファイルもお気に入り

トラックでは野菜販売の接客対応や軽作業などを担当している渡邊さん。絵を描く事や相鉄線のスタンプラリーなどの他にも多くの趣味を楽しんでいる。「楽しい事で忙しい」と話す渡邊さんには「二つの趣味についてお話しください」とお願いした。カメラを好きになったのは小学生の頃から。携帯電話のカメラ機能で、通所途中の風景や家族との日常、美味しいと思う食事などを一日に十数枚撮影している。「いいなと思ったらいつでもすぐ撮るのが楽しい」。撮った写真を見ながら、家族やトラックの他のメンバーと話すのも、撮影と同じくらい嬉しいと話す。



「デジカメを買ってもっといろいろな写真を撮るのが目標」と話す渡邊さん

**平成三十一年度
横浜市社協障害者支援センター事業と予算**

今年度の予算総額は、約三十二億九千万円で、団体数の減少による運営費助成の減額により、前年度から約七千万円（約二％）の減となった。

今年度は、関係団体や市社協各部署と連携して、以下の事業に重点的に取り組む。

障害理解の推進

「当事者発・地域啓発支援事業」は、区社協と協働して、生活圏域での障害理解の場として、全区での開催を目指す。

また、「セイフティーネットプロジェクト横浜」支援事業では、コミュニティセッションボード・カードなどを用い、当事者や家族の主眼的な活動を大切に、地域防災拠点や商店街などへの周知を行う。

また、障害者団体部

会のリーフレットを活用した啓発に取り組む。ガバナンスとコンプライアンスの徹底

運営費助成を行っている団体での不明金や負担金着服の発生を受け、これまで培ってきた関係を大切にしつつ、コンプライアンスに関する研修の実施や会計経理実務にかかる支援及び監査体制の強化を行い、事業全体の適切な運営に努める。

後見的支援制度の推進

推進法人として各区の運営法人と協働して、登録者拡大に努めるとともに、区社協や地域ケアプラザなどとの連携を通じて制度周知を行い、地域の中で登録者一人ひとりの希望に基づいた身近な見守り体制づくりを進める。

また、横浜生活あしんセンターなどと連

携して、成年後見制度の適切な情報提供などを行い、切れ目のない権利擁護の推進を図る。

横浜あゆみ荘のサービスマン・運営の向上

あゆみ荘では、今年度、レストラン厨房などの大規模改修を予定しており、十分な周知と説明など、安全にご利用いただけるよう配慮を行う。また、工事期間中も施設の利用提供に努めて利用者の確保を図るとともに、パッケージ企画の開発など、新たなニーズの開拓に取り組む。

また、区社協やウイリング横浜などと連携しながら、当事者・支援者などを対象とする研修の充実や地域などへの障害理解に向けた啓発事業にも取り組む。

受注センターわーくる

様々な企業・団体などに対し、障害者の日頃の活動への理解を図りながら、一層の受注開拓に努めるととも

に、登録事業所の受注支援を行うなど更なる拡大に向けて取り組む。

地域訓練会助成事業

障害児の保育やグループ活動などの場である地域訓練会の運営を支援し、活動費を助成する。併せて、関係機関や障害児家族に対し訓練会の周知に取組む。

助成予定…五十九団体

地域活動ホーム助成事業

障害児者の地域活動の拠点である機能強化型活動ホーム二十三か所の運営を支援し、その運営費を助成する。

グループホーム助成事業

障害者が地域で共同して自立した生活を送る場であるグループホームの運営を支援し、その運営費を助成する。

助成予定…六か所

地域活動支援事業

作業所型などに医師・弁護士・税理士などを派遣し、専門相談を実施する。また、グループホームの緊急時の経費助成を行う。

研修事業

事業所や団体などの活動に関わる当事者や家族、関係機関職員などにに対し、障害者福祉の総合的な研修を計画的に実施する。

事業名	予算額(千円)
地域訓練会運営費助成事業	85,287
地域活動ホーム事業	524,874
地域活動支援センター作業所型助成事業	2,034,016
グループホーム助成事業	76,541
販路拡大事業	6,656
家庭支援事業	2,547
研修事業	1,490
福祉団体活動支援事業	3,000
地域活動支援事業	15,535
療育検診活動事業	614
啓発活動事業	3,077
調査研究事業	479
人権擁護事業	2,950
助成団体監査事業	6,000
作業所等賠償責任保険事業	2,496
セイフティーネットプロジェクト横浜支援事業	2,481
障害者後見的支援事業	194,775
よこはま障害者共同受注総合センター事業	18,700
横浜あゆみ荘事業	230,330
その他	82,033
合計	3,293,881

また、区社協やウイリング横浜などと連携しながら、当事者・支援者などを対象とする研修の充実や地域などへの障害理解に向けた啓発事業にも取り組む。

受注センターわーくる

様々な企業・団体などに対し、障害者の日頃の活動への理解を図りながら、一層の受注開拓に努めるととも

地域活動支援センター作業所型助成事業

障害児者の人権が生活の様々な場面で確立していくよう、啓発活動やモニター活動を行う

人権擁護事業

障害児者の人権が生活の様々な場面で確立していくよう、啓発活動やモニター活動を行う

地域での見まもりの体制づくり

後見的支援室の取り組み

後見的支援室では、障害のある方が地域で安心して暮らせるよう、見まもりの体制づくりを丁寧に進めている。今回は『緑区障がい者後見的支援室みどりのこかげ（以下、「こかげ」）の実践を紹介する。

登録者の想い

知り合いを増やしたい

昨年、地域の方が開催する勉強会で話してくれる発達障害の方を探していることを知った『こかげ』。その地区で一人暮らしを



自分の障害や生活の様子を話す酒井さん(右)

している酒井さんに話をしたところ「やってみたい」との返事だった。一緒に話す内容を考え、二月の勉強会で「知り合いを増やし少しでも外に出られるようになりたい。人に必要とされていると感じる機会がほしい」と希望を語った。

現在、「こかげ」は、

酒井さんと相談しながら、その実現に向けて動いている。四月に民児協定例会で制度説明を行い、担当の民生委員を紹介していただき、あんしんキーパー（以下、「キーパー」）を依頼した。今後、酒井さんと顔合わせを行う予定だ。

母親の想い

災害時の不安

精神障害の息子さんが登録している伊藤さんがある日の面談で「大雨で避難勧告が出た



息子との思い出を語る伊藤さん

時、高齢で病気の夫、息子の三人で避難できるのか。心配が募った」と語った。『こかげ』では、キーパーになってくださる方を探すため、まず区社協に相談。その後、伊藤さんが住む地区の民児協定例会で制度を説明し、具体的に相談した結果、近所の民生委員がキーパー登録をしてくれ

ことになった。伊藤さんは「支援室には身近なところで見まもってくれる方がいる状況を作っていた。キーパーとの顔合わせでは、これまで伝えていなかった息子のことや自分の想いを話し、キーパーと心が通い合えたと感じる。

災害時の不安がなくなったわけではないが、心が軽くなった」と語る。**登録者や家族の安心のために** 地域の方たちに制度説明やキーパー登録の依頼を行ったスタッフの大越さんは「地域の情報を把握している区社協と地域の方たちの協力がなければ、キーパーを探すことはできなかった。今後、地域のみなさんの協力を得ながら、登録者と家族の想いを大切に、彼らの安心につなげる見まもり体制づくりに取り組んでいきたい」と語る。

※あんしんキーパー 身近なところで本人をさりげなく見まもる人。本人や家族の希望を伺い、後見的支援室が地域の人たちに働きかけ、登録していただく。また、既に本人のことをよく知っている人に登録していただく場合もある。



はじめのいっぽ

(都筑区・地域訓練会)

武内 信恵さん

はじめのいっぽは、音楽療法を中心につきき地域活動ホームで重症心身障害のあるお子さんも多く参加・活動している地域訓練会。ボランティアとして、千葉芳子さんを中心に池上順子さん、武内信恵さんが活動を支えている。今回は武内さんを紹介したい。

武内さんは、はじめのいっぽでのボランティアは十五年目。活動中は、音楽療法の森岡先生と一緒に楽器・マットの準備や補助を行い、参加者の当日の体調や表情に合わせてサポートをしている。



「今日もよろしくね」小野絢葉さんに声をかける武内さん

約一時間の活動中、リズムに合わせて一緒に口ずさみ、演奏に加わる中では武内さんにも自然に笑みがこぼれる。「はじめのいっぽは私のライフワーク」と話す武内さん。ヘルパーとして忙しい毎日を送る中でも、はじめのいっぽでの活動を最優先に考えるそう。長く活動を続ける中で、子ども達が学校に進学し、卒業していく姿を見られることは感慨深いと語る。「しょうがいのある・ないは全く関係ありません。子ども達が可愛いこと、笑顔が見られた時の嬉しさが何よりです」と活動の原動力をお話いただいた。

あゆみ荘 だより

◆レストラン厨房等の 改修に伴う業務の一部 休止について

お元気ですか一八五号で、平成三十一年度の厨房等改修のご案内をしましたが、その時の業務内容を一部変更いたします。

【工期】令和元年九月（翌二月中旬（予定））
但し、エレベーターの改修は十二月（翌一月末）となります。

【工事期間中のご利用 について】

（一）休止する業務

レストラン営業並びに食事の提供を伴う宿泊及び休憩

（二）ご提供可能なサービス及び施設利用

ア食事の提供を伴わない宿泊及び休憩
※1 工事期間の飲食物の持込みは可としました。

※2 浴室は通常どおりご利用いただけます。
イ児童遊戯室、研修室、機能回復訓練室

お問い合わせは、横浜あゆみ荘まで
☎045(941)8383

◆障害のある方のため のダンス教室（ヒップ ホップを楽しもう）を 初開催！

横浜あゆみ荘では、障害のある方の余暇を応援する企画事業を実施してありますが、今回多くの方からご要望のあったダンス教室を三月二十一日（木・春分の日）に開催しました。初めての開催にも関わらず、市内在住の障害のある方二十四名と支援者合わせ総勢四十名の参加がありました。



参加者全員で集合写真

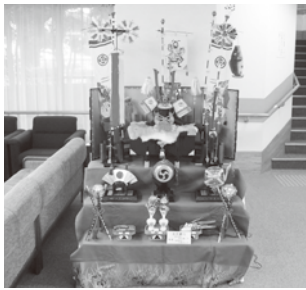
ダンスインストラクター ANNさんの明るく楽しい分かり易い指

導のもと、参加者の皆さんはヒップホップダンスの基本動作や今回の課題曲「USA」を

レッスンし、最後は参加者全員が「USA」をダンスできるようになり、沢山の笑顔が溢れる楽しいダンス教室となりました。

◆あゆみ荘季節の飾り

横浜あゆみ荘では、お正月、ひな祭り、端午の節句、七夕、ハロウィン、クリスマスなど季節ごとの飾り物やお菓子をご用意し、お客様をお迎えしております。



季節の飾り物 五月人形

横浜あゆみ荘でのひとときが、楽しい思い出になりますよう取り組んでまいりますので、職員一同皆様のご利用を心よりお待ちしております。

よこはま障害者共同受注総合センター 受注センター わーくる通信



株式会社Lead（瀬谷区瀬谷）は、昨年、初めて障害者事業所へ軽作業を発注した。

◆区役所からの紹介

（株）Leadはスクイズのストラップを卸しているが、それに関わる作業を、昨年四月から障害者事業所へ依頼している。

それまでは高齢の方などに内職として依頼していたが、体調不良などにより続けられなくなったそう。また、

事業を拡大し出荷数が多くなってきた時に、瀬谷区役所から聞いたとのことで、わーくるに相談があった。

◆事業所を紹介

スクイズとは、握ると潰れる柔らかい触感のおもちゃで、パン、お菓子の形など多種。わーくるでコーディネートするためには作業内容を聞き取っ

た。ストラップを一個ずつOPP袋に詰めたり、バーコードのシールを貼りつけたりする作業だが、毎回商品の形が異なり、その都度、説明しながら進める。

作業開始から納品まで数日ということもある。その後、わーくるから近隣事業所へ受注の相談したところ、やってみたいとのこと、紹介、作業を開始することとなった。

わーくるでは、今回のような障害者事業所へ依頼するのは初めてという問い合わせでも、受注の可能性を考えながら調整を進めている。



商品の一例(左)とOPP袋に貼付たシール例

◆新たな受注依頼

この一年の間、事業所との関係がうまくいくようにわーくるでも間に入って話し合ったり、間違いなく履行す

【わーくる問合せ先】
よこはま障害者共同
受注総合センター
☎045-306-9910
HP : <http://www.yokohama-juchuu.jp>

わーくるでは、今回のような障害者事業所へ依頼するのは初めてという問い合わせでも、受注の可能性を考えながら調整を進めている。

◆ するための対策を検討するなど、事業所との信頼関係を築いていった。その後、（株）Leadからは、依頼を増やしたいと相談があり、新たな事業所も紹介した。（株）Leadの飯田さんは「最初はわかってもらうように伝えることが大変だったが、関係が出来てきた後は、タイトな納期でも快く受けてもらえたり、利用者さんも会うと挨拶してくれたり、嬉しいことが多かった」と話す。